

## 今月のトピックス「チャのチャ炭疽病について」

### 1 被害の大きさ

チャ炭疽病はチャで最も代表的な病害です(図1)。多発すると樹勢が衰え、その後の茶期の新芽の生育が劣り収穫がのぞめません。各茶期の開葉期の1.7葉期ごろが最も感染しやすく、新芽が発病するので収穫した茶葉の品質にも影響します。



図1 炭疽病の多発の様子

### 2 発病の条件

感染適温は 25 ~ 27 で 6 月 ~ 7 月の梅雨期や 9 月 ~ 10 月頃の秋雨期の新芽生育期に雨が多いと発生しやすくなります。胞子は葉の病斑上でつくられ雨滴により拡大します。

発芽には 12 時間の結露時間が必要です。潜伏期間は比較的長く 15 日 ~ 20 日間程度であり、発芽して葉の表面から感染します。初期には小さな円形の病斑が出来、その後、拡大して茶褐色の不整形の病斑となります。大きな病斑は葉の半分以上になりなります。病斑葉の大半は落葉します。菌は病葉で越冬し、落葉では死滅します。

品種により感受性が異なり「やぶきた」は弱い品種の一つです。

### 3 似ている病気

炭疽病と同じくチャの代表的な病気である輪斑病とは、次のように区別できます。

表1 炭疽病と輪斑病の違い

	炭疽病(図2)	輪斑病(図3)
発病部位	葉のあちこちから発病	葉の傷口を中心に発病
病斑の特徴	のっぺりした茶褐色の病斑	明瞭な黒褐色の同心円状の模様



図2 炭疽病葉



図3 輪斑病葉

### 4 防除の考え方

発生を抑えるには窒素の過剰施用を避け、圃場周辺の除草、雑木の伐採により日当たり、風通しをよくすることが大切です。薬剤防除では、萌芽期には予防剤、その7日~10日後に治療剤を散布しましょう。

深刈剪定で、発病葉を落としてしまうのも効果があります。